

## マックス・エマヌエル・ツェンチッチ

### カウンターテナー

「ツェンチッチは、今最も美しい歌声を持つカウンターテナーである。」

2008年5月「オーパンヴェルト」誌

ここ数年で、現代のクラシック音楽界屈指のカウンターテナーに成長したマックス・エマヌエル・ツェンチッチ。その歌声は、専門家をはじめ、多くの聴衆を魅了してやまない。

すでに少年時代よりウィーン少年合唱団のメンバーとして、ソリストを務めた。

1992年よりソプラノ歌手としてソロキャリアを始め、2001年よりカウンターテナーに転向する。

彼は、次のような世界中の著名な数々の歌劇場で歌っている。

ウィーン国立歌劇場、ミュンヘン・バイエルン国立歌劇場、ジェノバのカルロ・フェリーチェ歌劇場、ドレスデンのゼンパーオパー、マドリッド・レアル歌劇場、パリ・シャンゼリゼ劇場、ブリュッセルのベルギー王立モネ劇場、ドイツ ベルリンオペラ、ナンシーのロレーヌ国立オペラ座、ジュネーブ大劇場、バルセロナのリセウ大劇場、フランクフルト歌劇場、リスボンのサン・カルロス国立劇場、トゥールーズのキャピトル劇場、アン・デア・ウィーン劇場などなど。

ツェンチッチは、世界各地のコンサートでも人気を博し、次の数多くの公演に客演している。ロンドンのバービカンセンター、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ウィーン楽友協会、バーデン・バーデンの祝祭劇場、アンブロネイ・フェスティバル、ハンブルグ・ライスハレ、ケルン歌劇場、パリオペラ座(ガルニエ宮)、ドブロヴニクフェスティバル、ドレスデン聖母教会、ルードヴィヒスベルグ音楽祭、ヴィースバーデンのヘッセン州立劇場、ニューヨークのカーネギーホール、東京オペラの森(東京・春・音楽祭)、ポツダム音楽祭、ハレのヘンデル音楽祭、イタリア・スポレート音楽祭、アイゼンシュタット・ハイドン音楽祭など。

2003年には、バーゼルでの「ポッペアの戴冠」のネローネ役の出演に対し、独オペラ・音楽専門誌「オーパンヴェルト」のその年の新人歌手に選出された。

マックス・エマヌエル・ツェンチッチのキャリアにおける重要なところは、ニューヨークのカーネギーホールでのヴィヴァルディの再発見されたセレナータ「アンドロメダ・リベラータ」のペルセオ役の演奏、ヘンデルの忘れられていたオペラ「ファラモンド」の主演、2010年の2月、3月のウィーン国立歌劇場にて世界初演された「メデア」のヘロルド役である。

アンドロメダ・リベラータは日本の音楽メディアにより2005年の最優秀コンサートに選出され、この作品はドイツグラモフォンが録音している。更に「メデア」は2010年の最優秀世界初演作品に選出されている。

マックス・エマヌエル・ツェンチッチは、ウィリアム・クリスティ、ルネ・ヤコブス、オッタヴィオ・ダントーネ、ディエゴ・フォソリス、ジャン・クリストフ・スピノジ、ジョージ・ペトロウ、エマヌエル・ハ

イム、リカルド・ムーティ、クリストフ・ルセ、ファビオ・ボンディなど多くの指揮者と定期的に活動を行っている。

さらに、数多くの彼の CD は様々な賞を受賞している。

ファラモンドの CD (EMI/Virgin Classics、2009 年 3 月発売)では、主役を歌っているマックス・エマヌエル・ツェンチッチは、ヘンデルの作品演奏家としての彼の卓越した才能を新たに示した。この CD 発売後間もなく、有名なフランスの音楽賞「ディアパゾン デクヴェルト」と「ディアパゾンドール」を受賞し、発売以来すでに 11 もの賞を受賞。

2010 年の初めには、EMI/Virgin Classics からソロ CD「メゾソプラノ」を発売し、この CD は批評家から絶賛され、現在までにテレマ、ポリンの賞、ドイツレコード批評賞並びにオルフェオドール賞を受賞している。

2008 年の春には、ランディのオペラ「聖アレッシオ」の DVD、2011 年の春にはモンテヴェルディの「ポッペアの戴冠」の DVD を出し、この二つの DVD は、ウィリアム・クリスティの指揮で演奏されている。

ソロ CD「メゾソプラノ」(2010 年 3 月)とフィリップ・ジャルスキーとのデュエット CD(2011 年)も同様にウィリアム・クリスティの指揮で演奏され、絶賛されている。このデュエットは、グルックのオペラ「エツィオ」の演奏と同様に、2012 年エコークラシック賞を受賞。

2011 年/2012 年のシーズンでは、ナンシーのロレーヌ国立オペラ座、リセウ大劇場(プラシード・ドミンゴとの共演)、リール歌劇場、ブレーメンの音楽祭に客演が続いた。さらに、リカルド・ムーティとのアメリカツアーがあり、様々なソロリサイタルとリーダーイベントを行ったシーズンであった(ヴェルサイユ宮殿内の鏡の回廊、カールスルーエのヘンデル音楽祭、パリのシャンゼリゼ劇場、ザグレブのリジンスキーホール、アテネのオナシスホールなど)。

2012 年/2013 年のシーズンでは、再発見されたレオナルド・ヴィンチのオペラ「アルタセルセ」のマンダーネとして、ロレーヌ国立オペラ座、アン・デア・ウィーン劇場、ケルン歌劇場、ローザンヌ歌劇場、シャンゼリゼ劇場などの出演が予定されている。

リーダーイベントは、シャンゼリゼ劇場、アビニヨン大劇場、キュヴィリエ劇場(旧バイエルンレジデント劇場)、ジュネーブのヴィクトリアホールにて行われる。

さらに、ヨーロッパの主要な音楽祭でコンサートを行う(アンブロンネ音楽祭、サブレ音楽祭、インスブルック古楽音楽祭、モンペリエのフランスラジオ音楽祭など)。

ヘンデルの「アレッシンドロ」の主役をマックス・エマヌエル・ツェンチッチは、ハレのヘンデル音楽祭、アテネのメガロンコンサートホール、パリのサル・プレイエル(コンサートホール)、ヴェルサイユのロイヤルオペラ劇場、アン・デア・ウィーン劇場、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ブレーメン音楽祭などに客演を予定している。

マックス・エマヌエル・ツェンチッチは、ヴィヴァルディのオペラ「ファルナーチェ」のタイトルロールを、パリのシャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ブレーメン音楽祭、ストラスブールのライン国立歌劇場、ミュルーズとヴェルサイユのオペラロイヤルにて歌う。

2011年の9月にこの成功を取めたヴィヴァルディのオペラのCDがEMI/Virgin Classicsより発売され、マックス・エマヌエル・ツェンチッチがタイトルロールを歌っている。これは批評家から絶賛され、ツェンチッチの息を呑むほどの声とその解釈の素晴らしさだけでなく、全てのカウンターテナー世代の将来性と指導的な人としての重要性が強調されている。

「このアリア『Ricordati che sei』は、ツェンチッチの作品の解釈と表現力の偉大さを確固たるものとするに充分である。彼が彼のカウンターテナーの世代における最高のバロック演奏家として数えられることは当然のことであり、彼自身がカウンターテナー世代のリーダーであり規範である。」(Mormile 雑誌オペラ 2012年2月4日号 イタリア語からの翻訳)

今後発売を予定しているCDは次の通りです。ヴィンチの「アルタセルセ」(2012年秋、EMI/Virgin Classicsより)、ヴェネツィア(2013年1月、EMI/Virgin Classicsより)、およびマックス・エマヌエル・ツェンチッチが主役を歌っているヘンデルの「アレッサンドロ」(2012年秋、Deccaより)。

[www.cencic.com](http://www.cencic.com) (演奏の試聴もできます。)

シーズン2012年/2013年のスケジュールやプロフィールなどは定期的に更新しておりますので、最新の情報をご利用いただきますようお願いいたします。